

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画に基づく事業)

令和 7 年 1 月 30 日

協議会名: 南房総・館山地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名: 地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金

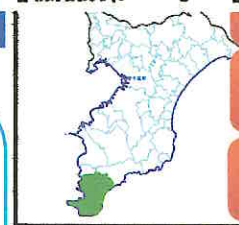
①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
鏡浦自動車株式会社	ア マント型交通「サヨイソコ南房 総・館山」 営業区域: 南房総市富山地区 の一部、三芳地区、館山市館 野地区の一部、九重地区の一 部 運行日: 月・火・木・金・土 運行時間帯: 8時30分～15時30 分(13時～14時除く) 運賃: 300円～700円	初回のためなし。	A 計画に位置付けられたとお り、適切に運行された。	A 事業が計画に位置付けられた目標 を達成した。 目標: 令和6年度の1日当り乗車人 数 5人/日 実績: 6.9人/日 分析: 実証運行から継続して運行 してきたことにより、定期的に二利 用いただく方が増えてきたことによ る理由によると考えられる。	・定額乗車券や回数乗車券な どのお得な乗車券の周知を引 き続き行い、定期利用者を増 やしていく。 ・乗り継ぎ利用などモデル利用 者を作成し、周知を行い、利用者 増へ繋げる。
	日 東 交 通 株 式 会 社 館山市街地循環バス 系統: 循環 運行回数: 6回/日 運賃: 現金200円・ キャッシュレス決済160円	・利用者向上策の実施が必要 であったことから、EVバス導入 にあわせ、キャッシュレス決済 方法の拡大、愛称をモチーフと したバスラッピングの実施、乗 車機会を創出するため期間限 定の無料乗車券の発行等を実 施した。	A 計画に位置付けられたとお り、適切に運行された。	C 事業が計画に位置付けられた目標 を達成した。 目標: 令和6年度の1日当り乗車人 数 40人/日、年間収支率10%以 上 実績: 33.3人/日、収支率7.20% 分析: EVバスを導入したことによる 利用者数増加がみられるが、EVバ スの車両代の支払いが開始したた め、収支率は低下した。	・昨年度と比較し1日あたりの 利用者数は増加しているが、 収支率は低下しているため、よ り一層利用者を増やし運賃収 入増加を目指す必要がある。 ・利用者増加に向けた定期的 かつ広範囲の広報活動を実施 する。 ・運賃以外の収入を得る方法を 検討する。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)
(協議会による一次評価の際は記入不要)

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和7年 1月 30日

協議会名:	南房総・館山地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内ファイダーシステム確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	南房総・館山地域公共交通計画(令和3年8月～令和8年3月)の基本理念: 「地域住民の生活を守り、地域の活性化を図る社会基盤となる圏域一体型の公共交通ネットワークの実現」 上記を踏まえたファイダーシステム維持の目的・必要性: ファイダー交通の「館山市街地循環バス」は、館山市の中心市街地における買い物、通院等の地域の移動手段としての役割を担っている。また、同じく「チヨイソコ南房総・館山」は、路線バスからの転換により令和5年10月より運行を開始し、デマンド型による地域内の移動手段の確保に繋げている。いずれの運行も起終点の館山駅では、JR内房線、高速バス、地域間幹線系統に接続しており、より広域への移動も可能になる等の重要な役割も担っている。一方で、当地域は少子高齢化や人口減少が著しく交通事業者の運営努力や自治体の運営補助のみでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。



地域の公共交通等の現況・課題

南房総市・館山市は、古くから商圏・生活圏を共にしている。両市の公共交通機関は、JR東日本内房線の9駅が所在しているほか、ジェイアールバス関東、日東交通が運行するバス路線が合計7路線あり、館山駅から放射状に路線網を展開している。そのうち6路線は、両市を跨いで運行され、住民の重要な交通手段となっている。しかしながら、各路線とも、沿線住民の人口減少等に伴い、利用者の減少が続いている。特に廃止代替路線の3路線は、両市が年間計約4,500万円以上の補助金を支出している状況であり、現状の形態での継続運行に課題が生じている。また、長大路線も多く、非効率な運行形態となっているケースもある。なお、南房総市では、前記のバス路線のほか市営路線バスとして2路線、スクール混乗路線として2路線を、館山市では、市街地循環バスを事業者へ委託し運行している。

東京や県都千葉市との連絡（都市間輸送）については、運賃や本数で優位に立つ高速バスの利用が大半となっており、鉄道における都市間輸送の役割が薄れてきている状況である。このような状況を受け、平日の特急列車全廃や日中の普通列車の木更津駅での系統分離、木更津・上総ノ宮間で2両編成のワンマン運行などが行われるなど、運行形態の変化がある中、利用者減少が続いている。

タクシーについても、利用者の減少や乗務員の確保の課題等により、経営状況が大変厳しい状況である。更に、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が急減し、その後の回復もコロナ以前には戻っておらず、各交通事業者とも苦しい経営環境に立たされている。

交通計画の基本的な方針／定性的な目標

- ①生活圏をともにする2市の移動需要を支える公共交通ネットワークの再構築
- ②地域輸送資源を総動員した、効果的で効率的な運行の実現
- ③交通結節点のサービス水準向上による、利用しやすい環境づくり
- ④観光ニーズに対応した魅力ある二次交通の整備
- ⑤地域自らデザインした地域主体の取組による持続可能な交通システムの導入
- ⑥公共交通をもっと利用してもらうための市民の意識改革と行動変容

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

当該エリアにおける公共交通の維持存続や更なる利便性向上を図るため、路線バスに替わる新たな交通システムや乗り継ぎ、車両の小型化などの実証運行を経て、令和5年10月より本格運行に移行した。当初は、予約型の乗合送迎サービスのため、利用者が伸び悩んだが、継続的に広報活動を行い徐々に利用者も増え、目標値を達成することができた。また、定額乗車券や回数乗車券などのお得な乗車券を販売し、定期的な利用者の増進に繋げた。協議会では、当該地域のほかにもこの仕組みを広げべく、実証運行を2地域で行った。

アピールポイント

居住地から商業施設や病院などへの生活に必要な移動手段の確保に努めるための乗降場所の設定や、交通空白地域へのエリア設定などを行っている。また、定期的な利用者を増やすため、定額乗車券や回数乗車券を企画・販売し、利用しやすい環境づくりに努めている。このほか、南房総市の福祉部局で発行している高齢者外出支援サービス（バス利用券）を、当該路線にも利用出来るよう連携している。

面積	340.2km ²
人口（R6.4.1時点）	79,358人
15歳未満	6,388人
65歳以上	34,288人
高齢化率	43.2%

交通計画の計画期間

令和2年8月～令和8年3月

協議会開催状況

（令和6事業年度に係るもの）

・第1回（令和6年6月7日）
事業実施について

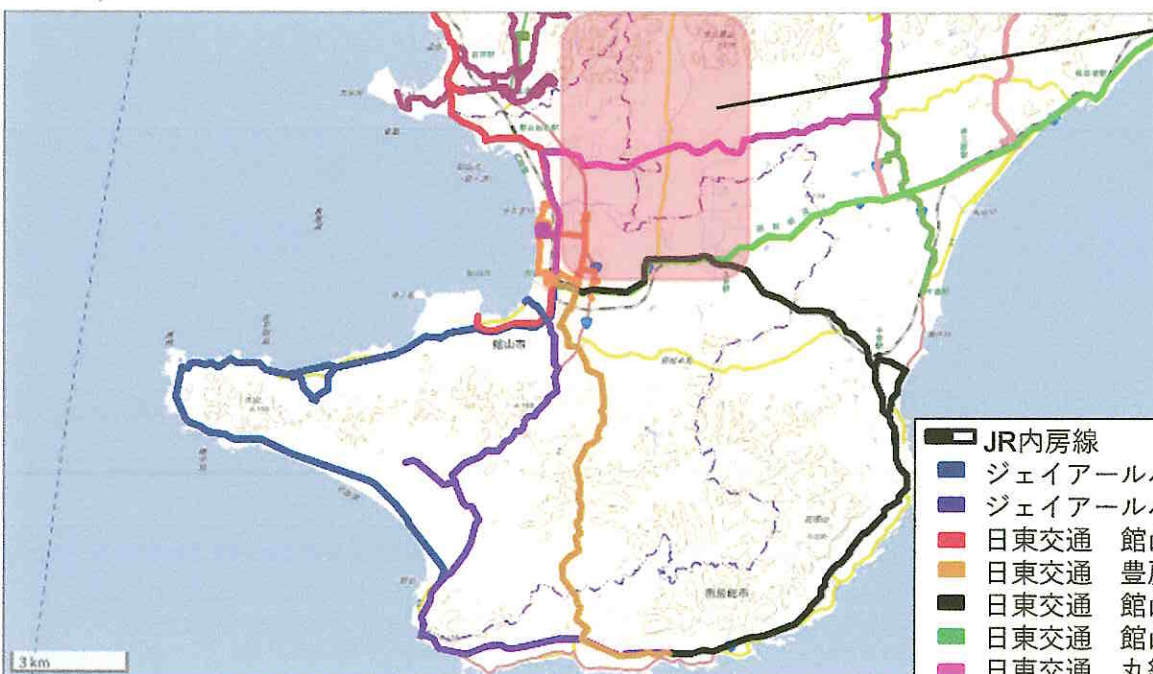
・第2回（令和6年9月18日）
現況報告について

・第3回（令和7年1月16日）
事業評価について

地域の公共交通体系図

地理院地図

GSI Maps

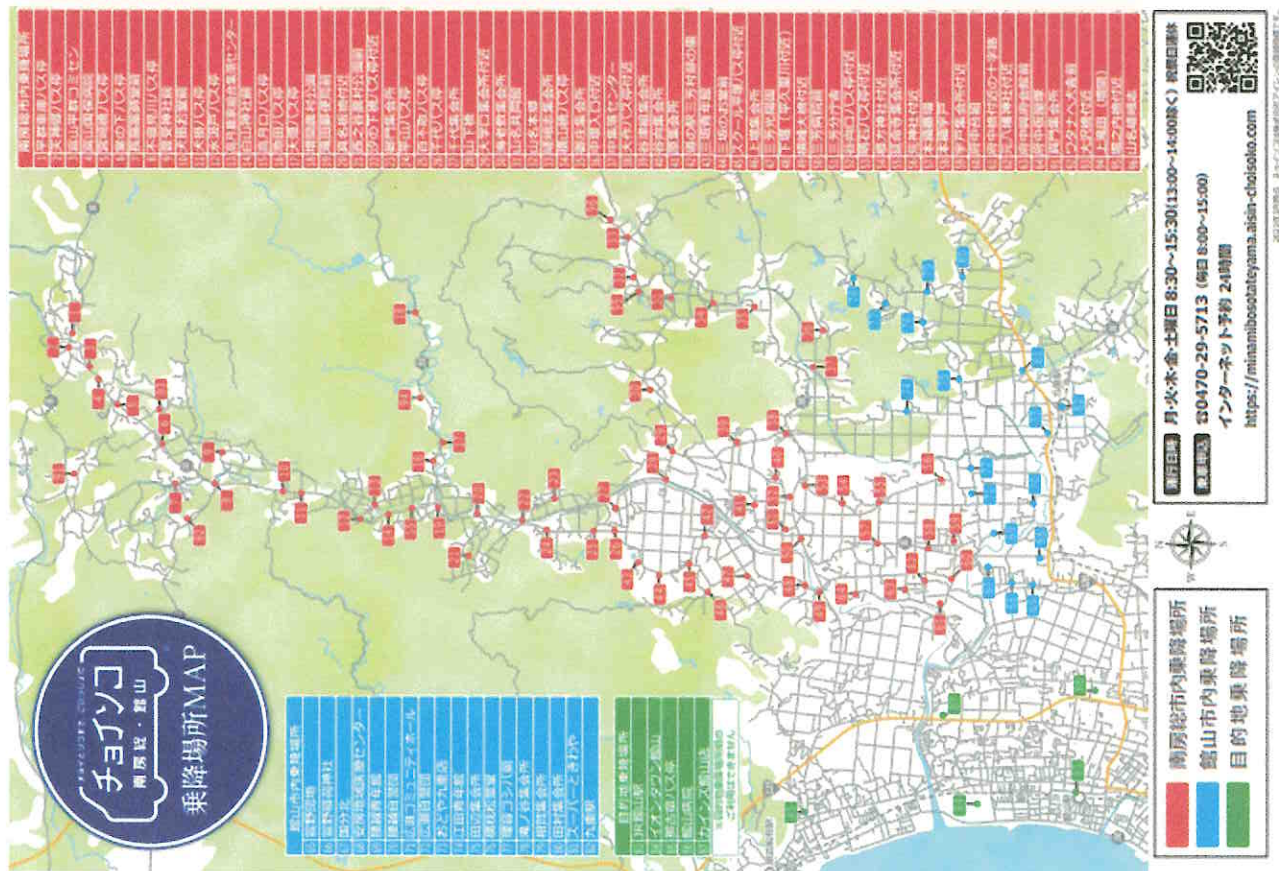


チョイソコ南房総・館山

- JR内房線
- ジェイアールバス関東 洲の崎線
- ジェイアールバス関東 南房州本線
- 日東交通 館山市内線
- 日東交通 豊房線
- 日東交通 館山千倉白浜線
- 日東交通 館山鴨川線
- 日東交通 丸線
- 館山市街地循環バス
- 南房総市営路線バス 富浦線
- 南房総市営路線バス 丸山線
- 南房総市営路線バス 北三原線

出典：国土地理院地図に路線図を追記して掲載

補助対象事業の運行エリア図



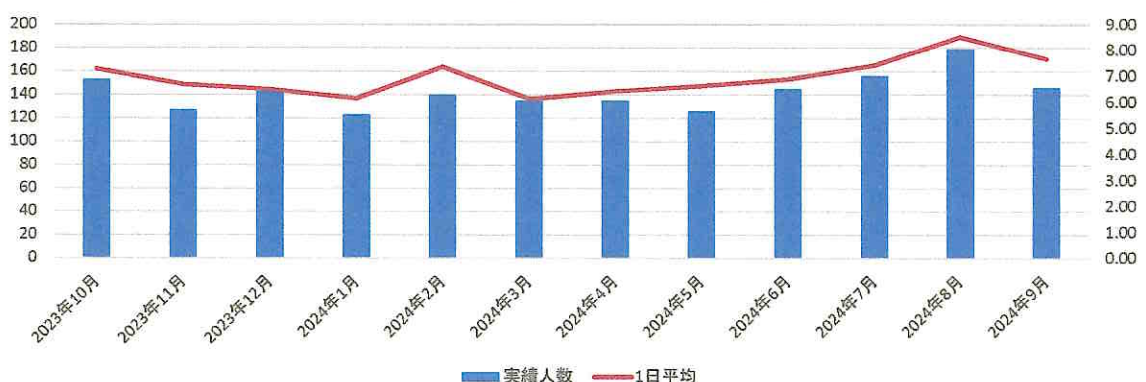
補助対象事業の実績データ

【令和6年度期実績】

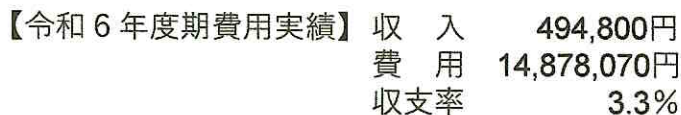
年月	運行日数	運休日数	実績人数	1日平均
2023年10月	21	10	153	7.29
2023年11月	19	11	127	6.68
2023年12月	22	9	143	6.50
2024年1月	20	11	123	6.15
2024年2月	19	10	140	7.37
2024年3月	22	9	135	6.14
2024年4月	21	9	135	6.43
2024年5月	19	12	126	6.63
2024年6月	21	9	145	6.90
2024年7月	21	9	156	7.43
2024年8月	21	10	179	8.52
2024年9月	19	11	146	7.68
年計	245	120	1,708	6.97

※令和6年8月16日(金)は台風7号接近の影響により運休あり。

チョイソコ南房総・館山 利用者推移



【令和6年度期乗降場所別実績】



※期間実績：定額38枚、回数15枚

地域の公共交通等の現況・課題

南房総市及び館山市内の公共交通は、人口減少・少子高齢化や、自家用車での移動を前提としたライフスタイル等により、利用者の減少に歯止めがかからず、状況に厳しさを増している。また、行政が公共交通の維持・確保のために負担する路線バス補助金等の財政支出も年々増大している。一方で高齢化率が40%を超え、自動車運転免許返納等により公共交通を利用する機会が増える人も増加傾向にある。既存バス路線は国道まで伸びておらず、比較的近い商業地区等は長らく公共交通の空白地帯であった。その空白を埋める館山市街地循環バスは非常に重要な役割を担っている。

交通計画の基本的な方針／定性的な目標

- ①生活圏をともにする2市の移動需要を支える公共交通ネットワークの再構築
- ②地域輸送資源を総動員した、効果的で効率的な運行の実現
- ③交通結節点のサービス水準向上による、利用しやすい環境づくり
- ④観光ニーズに対応した魅力ある二次交通の整備
- ⑤地域自らデザインした地域主体の取組による持続可能な交通システムの導入
- ⑥公共交通をもっと利用してもらうための市民の意識改革と行動変容

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

- ・既存バス路線でのアクセスが困難な市街地の商業施設・医療機関等に行けるようにするため、館山市街地循環バスを実証運行していたところ、一定程度の効果が認められたことから、令和5年6月から本格運行を開始した。市広報や、市公式SNS等を活用し、利用促進の広報を実施。
- ・令和6年5月から、BYD社製電気バス「J6」を導入し、キャッシュレス決済手段を拡大。クレジットカードのタッチ決済への対応や、QRコード決済を導入し決済方法の拡大を行った。
 - ・電気バスには愛称の「かいまーる」をモチーフとしたラッピングを施し、EVバス導入記念の期間限定無料乗車券を発行する等の利用促進策を実施した。

アピールポイント

- ・利用促進および市民から愛着を持ってもらうため、令和5年度に館山市街地循環バスの愛称募集を実施した。市内外から多数の応募があり、買い回るとの意味と、房州弁で駆け回るというニュアンスから着想を得たという「かいまーる」に決定し、愛称をモチーフとしたラッピングを車体に施している。
- ・令和6年1月現在、当該エリアの一般路線バスではPASMO等の交通系ICカードが利用できないが、クレジットカードのタッチ決済や、複数社のQRコード決済に対応しており、スムーズな乗降が可能となっている。



面 積	110.05 km ²
人口 (R6.4.1時点)	43,839人
15歳未満	3,706 人
65歳以上	17,777 人
高 齢 化 率	40.5 %

交通計画の計画期間

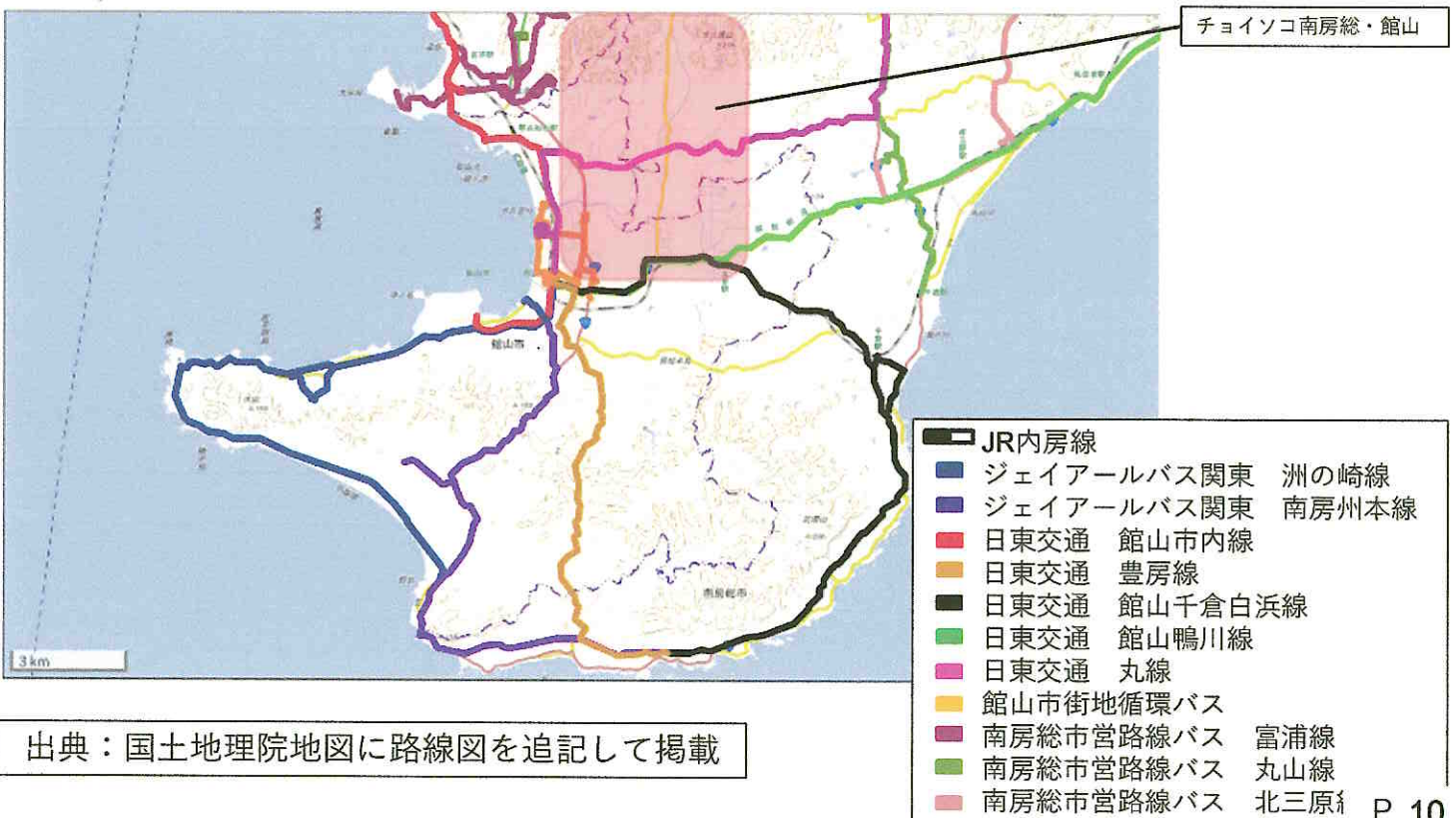
令和5年10月～
令和6年9月

協議会開催状況

- (令和6年度事業年度に係るもの)
- ・第1回(6年6月7日)
令和5年度事業の実証報告について
令和7年度地域公共交通計画認定申請書(フィーダー系統補助金)について(合意を得られた)
 - ・第2回(6年9月18日)
チョイソコとよふさの実証運行について
チョイソコ南界隈・館山の交差点道追加について
公共ライドシェアについて
 - ・第3回(令和7年1月16日)
地域内フィーダー系統確保維持事業の評価について

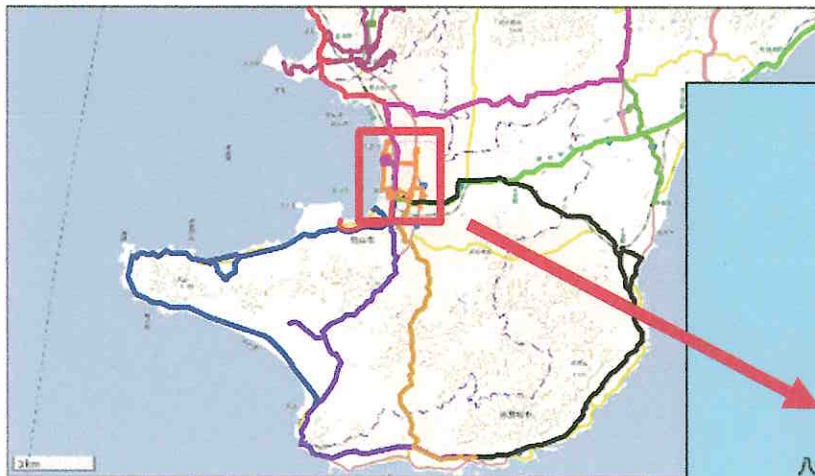
地域の公共交通体系図

地理院地図
GSI Maps



補助対象事業の運行系統図

地理院地図
Geo Map



出典：国土地理院地図に路線図を追記して掲載



補助対象事業の実績データ

【R6年度フィーダー用】市街地循環バス利用状況

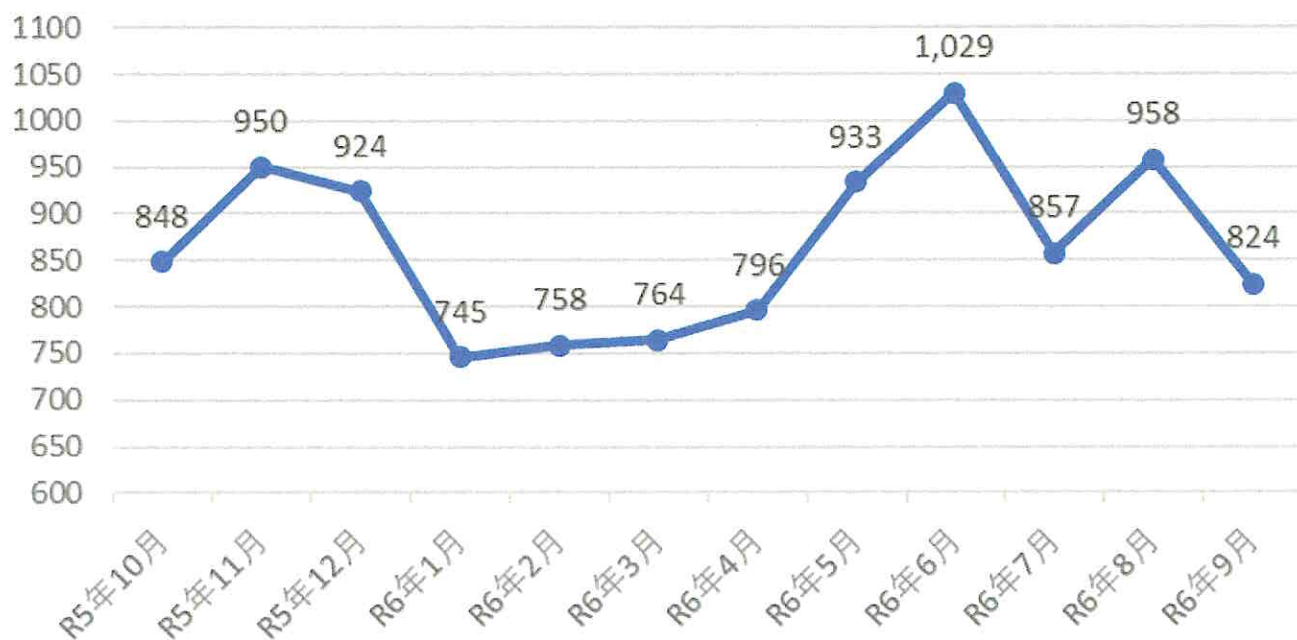
◇実績

	運行日数 (日)	運休日数 (日)	利用者数 (人)	1日平均 (人)	1便平均 (人)
R5年10月	26	0	848	32.6	5.4
R5年11月	26	0	950	36.5	6.1
R5年12月	26	0	924	35.5	5.9
R6年1月	26	0	745	28.7	4.8
R6年2月	25	0	758	30.3	5.1
R6年3月	26	0	764	29.4	4.9
R6年4月	26	0	796	30.6	5.1
R6年5月	27	0	933	34.6	5.8
R6年6月	25	0	1,029	41.2	6.9
R6年7月	27	0	857	31.7	5.3
R6年8月	26	1	958	36.8	6.1
R6年9月	25	0	824	33.0	5.5
合計	311	1	10,386	33.3	5.5

※令和6年8月16日(金)は台風7号接近の影響により運休。

補助対象事業の実績データ

循環バス利用状況の推移



補助対象事業の実績データ

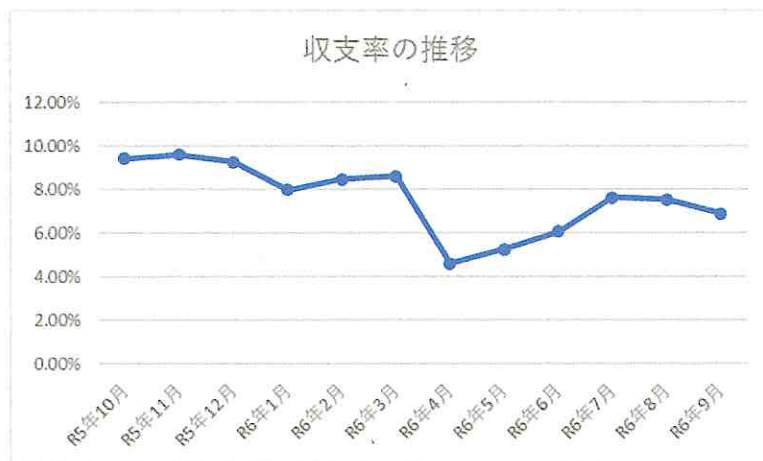
	停留所ごと合計	
	乗車	降車
館山駅東口	3608	0
中央公園前	111	10
ろうきん前	91	60
館山市役所	603	371
業務スーパー前	480	466
館山病院	615	604
南総文化ホール	700	486
南町（裁判所前）	149	29
北条病院前	82	29
ファミリーマート館山BP店・きんざ前	260	327
カインズ館山店	1330	1285
カワチ薬品前	148	162
八幡神社前	70	342
亀田ファミリークリニック館山	384	314
ヤマダデンキ	60	270
イオンタウン館山	1644	1740
八幡海岸	17	37
北条海岸	22	221
館山駅西口	8	1149
渚銀座入口	1	168
銀座通り商店街	3	301
館山駅東口	0	2015
合計	10386	10386



補助対象事業の実績データ

◇収支状況

	運賃収入	運行費用	収支率
R5年10月	138,947	1,480,151	9.39%
R5年11月	141,631	1,480,150	9.57%
R5年12月	136,407	1,480,151	9.22%
R6年1月	117,605	1,480,150	7.95%
R6年2月	122,537	1,454,504	8.42%
R6年3月	124,661	1,454,505	8.57%
R6年4月	127,959	2,797,250	4.57%
R6年5月	145,888	2,797,250	5.22%
R6年6月	128,520	2,132,514	6.03%
R6年7月	161,833	2,132,514	7.59%
R6年8月	159,819	2,132,514	7.49%
R6年9月	145,949	2,132,514	6.84%
合計	1,651,756	22,954,167	7.20%



※令和6年度からEVバス車両・充電設備の支払いが開始したことによる運行費用増加に伴い収支率も減少している。

利用促進の取組



デザインラフ



- 令和6年5月からEVバスの走行が開始した。



- 愛称の「かいまーる」をモチーフとしたラッピングを施した。

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和 7年 1月30日

協議会名: 南房総・館山地域交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通計画策定事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画等の策定等に向けた方針
①ニーズ把握に向けた2市市民アンケート調査 次年度に予定している南房総・館山地域公共交通計画の改定に向けた調査事業として、市民アンケート調査を12月に実施した。 ※配付部数4,466部⇒回収サンプル数2,200部(回収率49.3%) (調査仕様)各地域における公共交通の問題や課題、ニーズや利用意向、移動実態、費用負担、公共交通機関への依存度(利用実態(発着地や頻度など))等に関する市民の意識を把握し、今後の公共交通のあり方等について検討できるよう、市民を対象としたアンケート調査を実施した。このほか、新たに運行開始したデマンド交通システムの会員登録者に対し、今後の公共交通網を考えるに当たり、利用状況や課題等を把握するため、性別・年齢等の利用者の属性や利用目的、他の交通への乗り継ぎ、必要なサービス等についてのアンケート調査を実施した。 ②協議会の開催 第1回(令和6年6月7日):令和6年度事業等の協議 第2回(令和6年9月19日):市民アンケート調査実施の報告 第3回(令和7年1月16日):事業評価の協議	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施される見込み A	③計画等の策定等に向けた方針 財源確保や高齢者増加によるニーズ変化(既存の路線バスだけではカバーできない)ことが鮮明になってきており、今回の市民アンケート調査により浮き彫りとなった課題に対応することや、取り巻く環境の変化に対応した計画に改訂することを目的とし、令和7年度に検討を行い、令和8年3月の改訂を目指す。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	(協議会による一次評価の際は記入不要)
---------------------------------	---------------------

公共交通の概況・地域の特徴

南房総市・館山市は、古くから商圏・生活圏を共にしている。両市の公共交通機関は、JR東日本内房線の9駅が所在しているほか、ジェイアールバス関東、日東交通が運行するバス路線が合計7路線あり、館山駅から放射状に路線網を展開している。そのうち6路線は、両市を跨いで運行され、住民の重要な交通手段となっている。しかしながら、各路線とも、沿線住民の人口減少等に伴い、利用者数の減少が続いている。特に廃止代替路線の3路線は、両市が年間計約4,500万円以上の補助金を支出している状況であり、現状の形態での継続運行に課題が生じている。なお、南房総市では、前記のバス路線のほか市営路線バスとして2路線、スクール混乗路線として2路線を、館山市では、市街地循環バスを事業者へ委託し運行している。

東京や県都千葉市との連絡（都市間輸送）については、運賃や本数で優位に立つ高速バスの利用が大半となっており、鉄道における都市間輸送の役割が薄れてきている状況である。このような状況を受け、木更津・上総ノ宮間で2両編成のワンマン運行などが行われるなど、運行形態の変化がある中、利用者減少が続いている。また、タクシーについても、利用者の減少や乗務員の確保の課題等により、経営状況が大変厳しい状況である。更に、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が急減し、その後の回復もコロナ以前には戻っておらず、各交通事業者とも苦しい経営環境に立たされている。

地域の抱える問題点・計画策定調査の必要性

上記にも記載したとおり、現行の公共交通計画に従い各種取組を進めているところだが、地域がより主体性を持ち、住民を巻き込んだ形で移動手段確保を進める必要がある。加えて、財源確保や高齢者増加によるニーズ変化（既存の路線バスだけではカバーできない）ことが鮮明になってきており、市民アンケート調査等により浮き彫りとなった課題に対応する、新たな視点を兼ね備えた計画への改訂が必須となっている。

次年度では、取り巻く環境の変化に対応した計画に改訂することを目的とし、上位計画や関連計画との整合を図りつつ、2市合同の公共交通計画を改訂する。

アピールポイント

今回の市民アンケートでは、各公共交通モードに対する利用者・非利用者から意見を集約し、前回との比較（行動パターン等の変化など）や新たに始めた乗り合い送迎サービス利用者の声などとともに、次年度に新たな視点を加えながら他分野との共創を踏まえた検討を行い、計画策定（改定）に繋げることとする。

なお、既存の鉄道・バスのほか、新たに運行開始したデマンド型交通システムや公共ライドシェアの取組みについて調査を行っている。



面積	340.2km ²
人口（R6.4.1時点）	79,358人
15歳未満	6,388人
65歳以上	34,288人
高齢化率	43.2%

協議会開催状況

（令和6事業年度に係るもの）

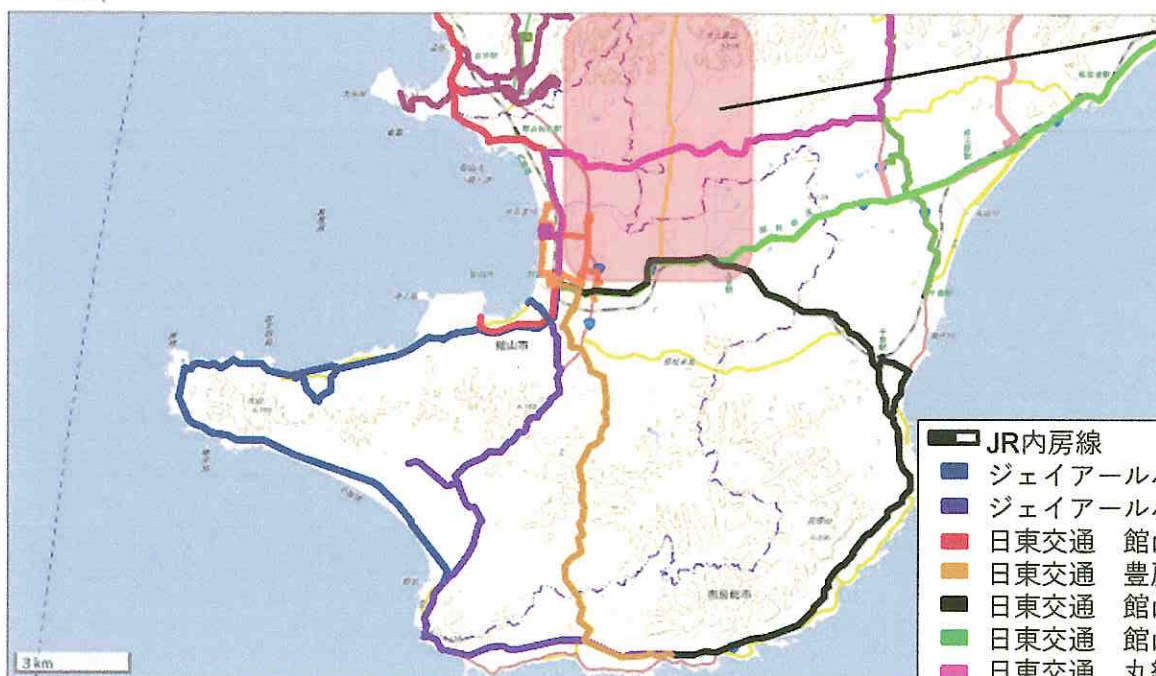
・第1回（令和6年6月7日）
事業計画等について

・第2回（令和6年9月18日）
事業実施等について

・第3回（令和7年1月16日）
事業評価について

地域の公共交通体系図

地理院地図
GSI Maps



チョイソコ南房総・館山

出典：国土地理院地図に路線図を追記して掲載